

広報おうむ

The Public Relations Magazine Vol.983

OUMU 7

2013



Photo : 雄武漁協ホタテ貝無料配布作業

特集 紋別空港利用促進助成事業

紋別—羽田直行便 通年運行に期待



雄武町オホーツク紋別空港
利用促進助成制度がスタートして丸一年。
町民をはじめ、親せきや知人、観光・ビジネス客など、たくさんの方々の利用により搭乗者数の増加が図られました。
今月号では、平成24年7月から平成25年3月までの利用実績や費用に対する経済効果、観光客のさまざまな声などを紹介します。

記事で用いている人数は「利用延べ人数」としています。例えば1人が往復利用した場合2人となります。

●空港利用実績

4万5767人

通年運航のため昨年、全日空が提示した搭乗者数は、平成24年11月から25年1月の経田便時を除いた人数で4万7千人。実績は惜しくも4万5767人にとどまりましたが、一昨年と比較すると約5千人の大幅増となりました。この大幅増を全日空がどう判断するのか、期待できる人数に達したところでは。なお4万5767人中、雄武町が助成金を支給した人数は5825人で全体の12・7%を占めています。遠紋地域の総人口に占める雄武町の人口割合は6・4%ですから、雄武町民と雄武町来訪者の利用率の高さが分かります。

●町実質負担額

2393万2千円

助成総額5794万5千円の財源内訳は過疎対策事業債4700万円、補助金165万円、町一般財源929万5千円となつています。過疎対策事業債は町の借金ですが、7割が地方交付税として戻ってくる大変有利な制度で、利息を含む残りの3割と町一般財源の合計は2393万2千円。これが町の実質負担額となります。

●経済効果

3000万円超

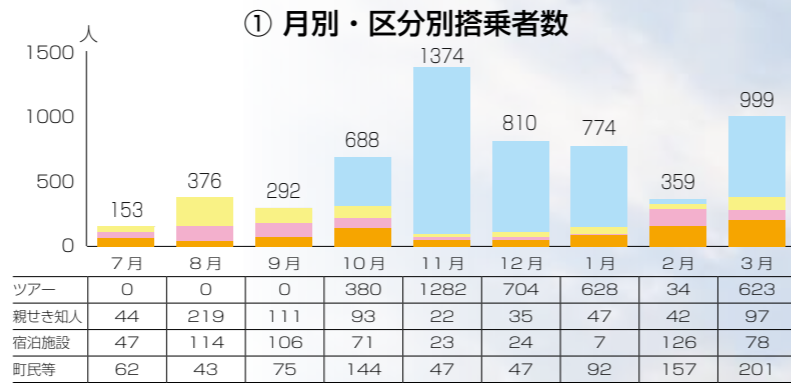
表1のとおり、町内宿泊施設利用者とツアー客の合計は4247人となり、これは往復です。実際に来町した純粋な観光客は2千人以上と推定。町の試算ですが、1人につき宿泊・入浴・食事・土産品などの売り上げ平均は約1万5千円。単純計算で経済効果は3千万円を超える結果となりました。実質町負担2393万2千円に対し、3千万円超のお金が雄武町の域内に戻ってきたことになりませんが、町としては、さらに財政負担を軽減し、経済効果

●搭乗者等の状況

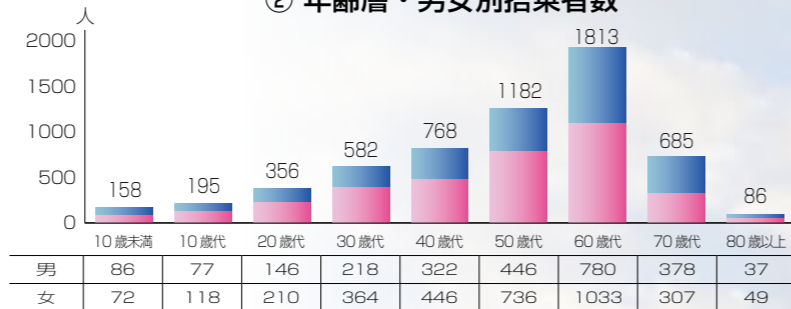
60歳代が31%

を高められるよう、今年4月からは町外の方に対する助成単価を半分に引き下げました。

①月別・区分別搭乗者数



②年齢層・男女別搭乗者数



●助成金支給実績

5794万5千円

前述のとおり雄武町が助成した人数は5825人で支給総額は5794万5千円でした。内訳は表1のとおり、町民等が868人で14・9%、大部分を占める旅行会社によるツアー客は3651人で62・7%となっています。

【表1】助成区分別人数・交付額

町民等	868人	864万5千円
宿泊施設を利用	596人	592万5千円
親せき・友人宅に宿泊	710人	686万5千円
大手旅行会社ツアー	3,651人	3,651万円
合計	5,825人	5,794万5千円

③町外者の都府県別割合

